

(参考資料)

HTLV-1 関連脊髄症(HAM)について

(1) 概要

成人T細胞白血病(ATL)の原因ウイルスである Human T lymphotropic virus type 1 (HTLV-1)の感染者の一部にのみ、両下肢麻痺、排尿排便障害を示す疾患。1986年に、本邦で提唱された。

(2) 原因

HTLV-1 ウイルス感染が原因ではあるが、ごく一部の感染者のみに発症する。発症機序は不明。

(3) 疫学

約3～4千名と推定される。特に九州・四国、沖縄に多い。
(参考)HTLV-1 感染者:108万人であり、大多数のキャリアは全く症状が無い

(4) 症状

脊髄に慢性の炎症がおこり傷害されるために、両下肢のつっぱり感、歩行困難、しびれ感、排尿困難や便秘で発症し、徐々に進行する。

(5) 治療法

ステロイド剤の内服、インターフェロン注射等の有効性は認められているが、根治療法はない

(6) 診断

特徴的な臨床経過、血液、髄液中の抗 HTLV-1 抗体の存在等で行う。

今回の通報内容のポイント

- 日本人の推定 HTLV-1 感染率は男性 0.66%、女性 1.02%
→ 感染者のうち HAM の生涯発症率は 0.25%
- 一方、生体腎移植を受けたHTLV-1陰性患者にHAMが発症している症例を5例把握しており、これは、2000-2013年に施行されたHTLV-1陽性ドナーから生体腎移植を受けた患者の5%以上と推定される。

「HAMに対する革新的な医薬品等の開発促進に関する研究」(平成26年度厚生労働科学研究委託費難治性疾患実用化研究事業、研究代表者:山野嘉久聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター准教授)